

今年度の重点課題(学校アクションプラン)

令和4年度 富山中部高等学校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学力の向上	
重点課題	①授業の水準を高める。 ②生徒がテスト等によって学力を自己分析し、主体的に学習を進めることができるよう指導する。	
現状	①授業力の向上を目指して互見授業等を行い、教科別授業研究会の充実に努めている。 ②課題をこなすことに終始し、テストによる学力分析と事後対策が不十分な生徒が多い。	
達成目標	①互見授業を行い、授業力の向上を図るための教科別授業研究会の実施回数	②各種テストの見直しを行い、その後の学習計画を自主的に作成・修正し、実践できた生徒の割合 (学習アンケートによる数字)
	各教科 年間2回以上	70%以上
方策	<ul style="list-style-type: none"> ○互見授業を全教員に対し公開する。 ○互見授業終了後、教科別授業研究会を開催し、3年間を見通した指導法を築き、指導目標を共有する。 ○定期的に生徒の学力や学習実態を分析し、授業方法の改善をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○読解力・思考力・判断力・表現力等を育むような質の高いテスト作りに努める。 ○校内模試においてテスト解説授業を実施し、テストを見直す意識を高めるとともに、その後の学習の指針を示す。 ○テストの見直しにより、学習活動におけるPDCAサイクルの徹底を図る。 ○教師が常に自己研修に励み、担任や教科担当者による個別指導の充実に努める。 ○個々の学力に応じた教材について、研究開発をさらに進める。 ○新入生研修で高校での学習法をしっかり身につけさせる。

評価基準 A達成した Bほぼ達成した C現状維持 D現状より悪くなった

重点項目	進路意識の高揚と進路希望の実現	
重点課題	①自己の将来像に連なる進路意識を醸成し、進路希望の実現をはかる。 ②第一志望をあきらめず、難関大学への進学をめざす意識を育成する。	
現状	①全員が大学への進学を希望している。大学などと連携した探究的な学習活動・体験の機会を活用する工夫が必要である。 ②自分の夢や希望を具現化するために、意欲的に情報を収集し活用する姿勢に欠け、進路選択が遅れる生徒が増加傾向にある。	
達成目標	①大学探訪・進路講演会に満足した生徒の割合 大学探訪 … 90%以上 進路講演会 … 90%以上	②難関10大学+国公立医学部出願した生徒の割合 難関国立10大学と国公立医学部に 出願した生徒の割合 … 50%以上
方策	○大学生生活を具体的にイメージさせるために、コロナ感染拡大状況に留意しつつ、2学年の8月に「大学探訪」を行い、卒業生を招いて座談会を開く。 3月には大学受験を終えた直後の卒業生、既卒生を招き、「先輩に学ぶ会」を行う。 ○将来の社会的・職業的自立に向けた一人一人のキャリア発達を促すために1学年の生徒に対し進路講演会を行う。事前に希望を集約して要望の多い分野から講師を招き、15分野以上の分科会を設置し実施する。また生徒が具体的に進路を考えられるように、講師は生徒にとって身近な存在として、本校卒業生を主に依頼する。	○面接指導や学年集会、および進路に関する行事を通して、早い時期から高い進路意識を持たせるよう指導する。また3学年では個別指導を強化し、生徒一人一人が志望大学の要求する学力に到達するように努める。 ○SSH事業等を通し探究的な学習活動・体験の機会を増やし、大学で何をするかについて具体的なイメージを抱かせる。

評価基準 A達成した Bほぼ達成した C現状維持 D現状より悪くなった

重点項目	読書指導・体力の向上	
重点課題	①読書指導を充実させ、図書館利用の広報周知を行う。 ②体力の向上に努めさせる。	
現状	①生徒には、読書を通じて自らの生き方や社会のあり方などを思索する時間が必要であるが、学校生活が多忙化し、なかなか読書の時間が取れていない状態である。 ②体力の低下が危惧される生徒が増えてきている。	
達成目標	①生徒への読書、図書館利用を促す広報刊行物の年間配布回数及び読書の時間の数	②2年次において、持久走の自己最高記録を更新した生徒の割合
	広報活動20回以上、 読書の時間年間12時間以上(1・2年)	70%以上
方策	○図書広報刊行物を月1回以上発行する。 ○読書の時間を計画的に確保し、探究型読書を実施する。また、年2回「読書会」を行う。 ○読書教養講座の実施や「本の虫」などの発行を通して図書委員による主体的な活動を行い、図書館への理解を深めさせる。	○全学年、体育の授業時に、毎時10分間程度のサーキットトレーニングを実施する。 ○前年度の自己記録を参考に今年度の自己目標を明確にし、体育の授業や部活動などで意欲的なトレーニングに結びつける。

評価基準 A達成した Bほぼ達成した C現状維持 D現状より悪くなった

重点項目	学校行事・部活動の充実	
重点課題	①体育大会をより充実させる。 ②部活動を充実させる。	
現状	①体育大会へのあこがれが、本校への志望理由の一つになるなど、体育大会は、本校最大の行事として知られている。また、体育大会を通じて、生徒たちは人間的にも大きく成長している。 ②全校生徒に対し、いずれかの部に所属するよう勧めている。生徒は、学習と部活動を両立させるために、懸命に取り組んでいる。	
達成目標	①体育大会に充実感を持つ生徒の割合 *大会終了後に実施する、生徒会によるアンケート 80%以上	②部活動に充実感を得た生徒の割合 *3年生全員を対象にした、8月下旬のアンケート 80%以上
方策	○体育大会の競技や応援の仕方について、生徒会を中心に改善を常にはかる。 ○競技の練習や準備活動が行き過ぎないように、適切な指導を行う。	○部活動への参加を積極的に促す。 ○限られた時間の中での、効率的な練習や活動を普段から考えさせる。 ○個々の生徒が、学習と部活動のバランスが取れるよう、ホーム担任と部顧問が連携を取って指導する。

評価基準 A達成した Bほぼ達成した C現状維持 D現状より悪くなった

重点項目	「科学的思考力」と「自己発信力」の育成による「探究力」の伸長	
重点課題	①探究活動を計画的に実施して、仮説設定力をさらに強化することで「科学的思考力」を高める。 ②さまざまな研修や学術交流を通して、対話することに重きを置いて「自己発信力」を高める。	
現状	①これまで、探究科学科を中心に、野外実習や課題研究などのさまざまな探究活動を通して、「科学的思考力」の向上をはかってきたが、SSH指定校として普通科への普及も含めてより計画的に全校生徒の「科学的思考力」を育成する必要がある。 ②海外研修などの研修・実習や学術交流に参加する生徒が増えている。	
達成目標	①-1 野外実習、大学実習に対するそれぞれの目標達成度 *各実習事後に実施するアンケート	②研修参加生徒に対する研修前後のアンケート結果の分析
	①-2 探究科学科、普通科それぞれ、課題研究における仮説設定の評価	
	①-1 各90%以上 ①-2 レベル3(目標)に到達した生徒の割合80%以上	②研修に参加した生徒の事後の自己評価アンケートで、「自己発信力」が向上した割合70%以上
方策	○野外実習や大学実習では、実習の内容や方法について十分に打合せを行ない、生徒が興味関心を抱き、積極的に参加できる工夫をする。 ○課題研究をルーブリックを用いて評価し、「探究力」の伸びをはかる。大学などとの連携をはかり、探究活動を充実させる。	○研修や学術交流に向けて積極的に自分の意見や考えを発信できる力を育てる工夫をする。 ○事後研修により、研修や学術交流を通して身につけた「自己発信力」の維持向上を図る。

評価基準 A達成した Bほぼ達成した C現状維持 D現状より悪くなった